

# キャンパス点描

## 学部オープンキャンパス2018を開催しました

2018年7月14日(土)～16日(月)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。今年は特に猛暑が厳しい中、6,500名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

昨年に引き続き、各学科・講座・コースの説明会場が来場者の集合場所となり、大学の教育の特色、奨学金や学生寮についての説明がありました。その後、各学部・学科・講座・コースの説明、模擬授業



学科説明会



模擬授業 (食物栄養学科)

や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが実施されました。

新たな取り組みとして、事前申込者による学長への質問コーナーが開催されました。受験希望者と学長との間で活発な質疑応答がなされ、終始和やかな雰囲気で行いました。

また、今年4月にリニューアルオープンした附属図書館、昨年より開催しているAO入試(新フンボルト入試)説明会をはじめ、各種相談・質問コーナー、歴史資料館、お茶大の学園祭(徽音祭)情報コーナー、大学生協食堂体験や大学グッズ販売コーナー等にも、連日多くの方にお越しいただきました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちしております。

## 文部科学省エントランスにて、生活工学共同専攻の企画展示を実施しました

文部科学省エントランスにおいて、8月21日(火)から9月24日(月)まで「ライフスタイルに合わせた科学技術の創造～生活工学の推進」をテーマとする企画展示を行いました。

お茶の水女子大学と奈良女子大学が共同で推進している生活工学共同専攻は、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる人材を育成しています。また、生活者視点からの工学の推進、そして人と暮らしを中心とした物づくりの実践を通じて、学際融合型の生活工学教育・研究を展開しています。本企画では、共同専攻の趣旨・特徴、教育研究環境、研究例などをパネル展示するとともに、具体的な研究成果物を展示することで、訪問者の皆様に「生活工学」の理念や意義を紹介しました。

9月18日(火)には、文部科学省「情報ひろばラウンジ」で企画展示イベントとして、「歩行計測靴デバイス」体験会を実施しました。来

場者は歩行計測靴デバイスを装着し、実際に何回か歩いたあと、その場で静止立位機能・歩行機能の評価結果のフィードバックが行われました。また、希望者には生活工学の趣旨説明、ならびに生活工学共同専攻の説明会も開催されました。「立つ」、「歩く」という日常的な動作を再認識し、生活工学の魅力を体感したイベントとなりました。



説明会の様子



歩行計測靴デバイス

## トランスジェンダー学生の受入れについての記者会見を開催しました



記者会見の様子

7月10日(火)にトランスジェンダー学生の受入れについての記者会見を開催しました。本学は、自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する人(戸籍上男性であっても性自認が女性であるトランスジェンダー学生)を2020年度の学部および大学院の入学から受入れることを決定しました。これは、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」

## AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

「新フンボルト入試」導入後3回目となるプレゼミナールを2018年9月29日(土)・30日(日)に実施しました。2日間で、受験生173名を含むのべ480人が参加してくれました。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会ともなっています。



セミナー(文系)の様子



全学説明会の様子

プレゼミナール1日目は、文系諸分野から6つのセミナー、理系からは7つのセミナーを開講し、担当の教員がそれぞれ熱のこもった授業を行いました。1日目のセミナー受講者は364名にのびります。

2日目は、台風接近というあいにくの悪天候のなか、受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館情報検索演習を午前、午後を開講し、また理学部生物学科では大学院生による研究ポスター発表と教員による自主研究課題相談会を行い、のべ116名が参加してくれました。

従来の入試は、大学が受験生を一方向的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、というものだったと思います。それに対してこの新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、大学での学びとはどのようなものであるかを体験し、その上でお茶大でぜひ学びたい、と思ってもらえるような入試を目指しています。来年もこの新フンボルト入試に、多くの意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを期待しています。

## お茶の水女子大学附属小学校が創立140周年記念式典、記念シンポジウムを開催しました

お茶の水女子大学附属小学校は、明治11年(1878年)に東京女子師範学校附属練習小学校として開校し、今年で創立140周年を迎えました。

開校記念日である9月20日(木)に、文部科学省大臣官房・瀧本寛審議官をはじめ多数の来賓をお迎えし、室伏きみ子学長、池田全之学校長などの大学及び附属学校関係者、卒業生の出席のもと、大学講堂にて記念式典が開催されました。

1年生から6年生までの在校児童634名が出席した式典では、児童による校歌「みがかずば」の斉唱、来賓祝辞に続き、卒業生の戸田奈津子氏によるお話があり、最後は「わたしたちの歌」が歌われました。6歳の1年生から80歳を過ぎる卒業生の方まで、同じ学び舎で学んだ人々が会するひとときを持つことができました。

午後の祝賀会は、卒業生、旧教職員、現教職員、教育後援会会員などが集まり、小学校の今昔を語り合い、卒業生のハーブ演奏、保護者ボランティアの活動DVD、保護者らによる男声コーラスなどを楽しみました。

夕方からは、記念シンポジウム『子どもから』の伝統が拓く明日の教育』を開催し、教育関係者、研究者を交えて、現在の研究開発で創設してきた新教科「てつがく」の意義や可能性について活発な意見交換がなされました。伝統を大切にしつつ、常に新しい教育を世の中に提案していく附属小学校のあり方を示すよい機会となりました。

大学の歴史資料館では、9月20日(木)より11月22日(木)まで、附属小学校創立140周年記念特別展示「お茶小140年のあゆみ」を開催し、多くの方にご覧いただいております。



挨拶を行う池田校長



戸田氏と在校児童の交流

という国立大学法人としての本学のミッション(2004年制定)に基づき、判断したものです。

記者会見には、室伏きみ子学長、三浦徹理事・副学長[教育改革・入試改革・学術情報担当]、猪崎弥生理事・副学長[総務・男女共同参画担当]、森田育男理事・副学長[研究・イノベーション担当]が出席しました。冒頭に石丸徑一郎准教授からトランスジェンダー

について説明があり、その後、室伏きみ子学長からトランスジェンダー学生受入れの経緯や受入れに関する準備等について具体的な説明がありました。多くの報道機関にご出席いただき、活発な質疑が行われました。